

サンゴ植え付け 昨年2000本

県内外の企業19社が参加しサンゴの再生に取り組む「チーム美らサンゴ」のメンバーが15日、県庁を訪れ、文化観光スポーツ部の嘉手苅孝夫部長らに昨年の活動を報告した。チーム美らサンゴのキャプテンで川崎重工業沖縄支社の小林文彦社長は「サンゴの植え付けに多くの人が関心を持つてくれており、楽しみながら活動できている」と伝えた。

昨年は恩納村の海域で、地元ダイバーや漁協などの協力を得ながらサンゴを計約2千本植え付けた

という。参加者は年4回で計258人になり、サンゴの天敵のオニヒトデの駆除や、サンゴが産卵する様子も観察した。2016年は白化現象が大規模に確認されたが、昨年は生存率が比較的高かつたという。

メンバーからは参加希望者の増加により、今年は植え付けを5回に増やすことも報告された。嘉手苅部長は「サンゴは沖縄の大事な観光資源。保存活動は大変ありがたく、長く続けてもらいたい」とお願いしていた。

チーム美らサンゴ 258人参加



県文化観光スポーツ部の嘉手苅孝夫
部長(手前左)らに活動を報告する
「チーム美らサンゴ」のメンバー
15日、県庁